



家族の笑顔が元気の源

## 小林 繭子 さん

### PROFILE

こばやし まゆこ(上岬区・33)  
6、3、0歳の3人の子どもを育てながら、コンテンポラリーダンス(現代舞踊)などを指導している

子育て、ダンスへの思い  
ダンサーとして活動していた小林さんは、結婚と妊娠を機に田舎で子育てをしたいという思いが募り、御前崎市へ。「何でもそうろう便利な生活もいけれど、多少不便なことがあっても自然の中でのびのびと子育てをしたかった。元気がよく駆け回る子どもたちの姿が見られることがなによりうれしい」と笑顔で語る。

憧れのダンサーを目指して  
「今すぐにも踊りに行きたいくらい、ダンスが好き」と話すのは、3児の母でありコンテンポラリーダンスの指導者である小林繭子さん。小林さんは、小学生の時からダンスを習うが「憧れがなくなると踊りが好きだということに気が付かなかった」と当時を振り返る。高校生になると、中国の古典舞踊に「気」の概念を取り入れた「鳳仙功舞踊」の舞台に魅了され、「あの舞台に立ちたい」とプロになることを決意。人一倍練習を重ね、念願の舞踊団へ入団し、国内外を舞台にプロダンサーとしての一歩を踏み出した。

出産後は、子育てをしながらスポーツジムで働いていたが、指導する仕事に携わるうちに「一人一人と向き合いたい」という思いが強くなり、指導者として、表現者としてスキルアップするために思い切ってスポーツジムを退社。スタジオ「CoCoon」を立ち上げ、ダンスの指導者としての道を歩み始めた。

### 母として輝く姿をわが子へ

現在、週に4日ダンスや体操を指導している小林さんは「ダンスと子育ての両方がある」という。「レッスンで一緒にいる時間が少なくなると子どもたちが心配になるけれど、夫や両親の支えがあるからダンスに集中できる。子どもたちにはお母さんが自信を持って輝いている背中を見て、成長してほしい」と話す笑顔がまぶしかった。

小林さんは「子どもたちがもう少し大きくなったら、もう一度プロとして舞台上に立ちたい」と意欲を見せる。

挑戦を続ける彼女の今後に期待したい。